令和３年度第２回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会議事録

１　日時

令和３年 11 月５日（金）　13:30～15:00

２　場所

エスポワールいわて　イベントホール

３　出席委員（敬称略）

委　員　　大　平　恭　子
委　員　　工　藤　昌　代
委　員　　郷右近　　勤
委　員　　佐　藤　愛　理
委　員　　竹　本　太　郎
委員長　　吉　野　英　岐
委　員　　若　菜　千　穂

４　議事

【１　開会】

・ 事務局が開会を宣言。

【２　挨拶】

・ 岩手県農林水産部農政担当技監より、開会の挨拶。
・ 事務局が、委員９名のうち、過半数を超える７名の出席があることから、委員会が成立することを報告。
・ 以降、吉野委員長が議長となり進行。

【３　協議】

(1) 令和３年度「いわて中山間賞」の選考について

・ 事務局が、参考資料１に基づき、いわて中山間賞について説明。

① 農事組合法人なべくら（花巻市）について

・ 資料No. １に基づき、花巻市「農事組合法人なべくら」の概要を説明。

〔佐藤委員〕コロナの影響で外食用の米が余っているという話を聞いたが、この法人は、収入の面で不安を感じていないのか。

〔事務局〕組合長との話の中では、今回の米価下落に大きな不安を感じている様子はなかった。飼料用米や転作作物にも取り組んでおり、米価下落については、法人経営として今まで支払っていたものの単価を見直すとことなどでやりくりしていくという話であった。これからも美味しい「銀河のしずく」を作っていくという前向きな話をされていた。

〔若菜委員〕食味収量コンバインは、県内でも普通に導入されているものなのか。こうした機械を法人では共通で使用しているのか。データ管理は法人のメンバーだけでできるのか、それとも関係機関のサポートがあるのか。

〔事務局〕機械は法人で導入しているもので、共通で使用している。このコンバインを使用することで、ほ場ごとの収量が分かることから、翌年の施肥設計などの参考になるという話であった。データ管理は法人で行っているが、この法人はスマート農業の実証試験に協力しており、地元の普及センターもサポートを行っている。このコンバインが県内でどの程度導入されているか把握していないが、多くはないと思っている。

〔事務局〕「銀河のしずく」には、県として品質基準を設けている。このため、食味や収量のセンサー付きコンバインを導入して取り組んでいるところがある。これを用いることで、大きな区画の水田でも、収量の低い場所、食味の悪い場所が把握でき、それに応じて肥料を増やすなどのきめ細かな管理ができるようになる。

〔郷右近委員〕この集落は比較的平坦な場所で、土地利用型の農業経営を目指していることから、これまでの中山間賞の中では異色という感がある。ここは中山間地に該当するのかどうか微妙な気がする。集落の目標は明確に打ち出されているし、耕作放棄地対策や水路維持の取組などの基準は満たしている。6 次産業化や株式会社化、直売店など、これからの取組も多いが、期待を込めての受賞となるかと思う。

〔吉野委員長〕この地域を含む旧湯口村全体が特定農山村法、山村振興法の指定を受けるということで中山間地として扱われるということでよいか。

〔事務局〕その通り。

〔工藤委員〕構成員の年齢構成について、45 歳以下が 1 名とのことだが、それ以外の方の年齢分布はどうなっているか。

〔事務局〕平均年齢は 68 歳となっている。詳細な年齢構成は把握していないが、60 歳

で定年退職した方々が主力となって作業を行っているとのことであった。

〔竹本委員〕選考基準は満たしているものと考えている。この法人は、三地区に支部を設け別々に作業を行っているとのことだが、いずれ作業も収れんしていくのか。会計は支部ごとに決算して合算しているのか。法人の収益は、機械の共同利用に係る部分のみか、生産物の販売に係る収益も含むのか。

〔事務局〕作業の収れんについては、検討中のようである。会計は支部ごとではなく、法人全体でプールして決算しており、生産物の販売に係る収益も含んでいる。ほ場ごとの収量等が分かるので、収量や個人の働きに応じて分配金を決めるなど、メリハリをつけているとのことである。

・花巻市「農事組合法人なべくら」のいわて中山間賞の受賞を可とすることについて了承された。

② 東稲集落（一関市）について

・ 事務局が、資料No.２に基づき、一関市「東稲集落」の概要を説明。

〔若菜委員〕機械を共同利用しているとのことだが、作業も共同で行っているのか。作業委託のような形になっているのか。

〔事務局〕機械担当の方々が作業も行っている。構成員の農地を田植えから収穫まで管理しているとのこと。

〔若菜委員〕作業料は手間賃のような形で徴収しているのか。

〔事務局〕作業料も込みで機械利用料として徴収しているとのこと。

〔若菜委員〕この地域は棚田が多く、法面の草刈りなどの維持管理が大変だと思うが、それに向けて、もう１つ２つアピールポイントはあるか。

〔事務局〕前向きな取組として、棚田の奥の傾斜にあじさいを植栽している。かつては地域の学校がバスであじさいを見学に来るなどしていた。こうしたことが復活できるよう集落で協力し、外の人たちに来てもらえるようにしていきたいとの話であった。

〔吉野委員長〕このあじさいは特別なあじさいなのか。

〔事務局〕一関の舞川に有名なあじさい園があるが、そこから苗を購入しているとのことであった。日陰の場所には山あじさいを、日当たりの良い場所にはアナベルのような華やかな花を、あじさい園にならって植栽していると聞いている。

〔吉野委員長〕見頃はいつ頃が。

〔事務局〕６月～７月になる。秋になると黒くなってしまう。あじさいはドライフラワーにも使われている。今年はあじさい園からドライフラワー用に注文があったとの話であった。

〔吉野委員長〕景観作物としてあじさいを入れているところは県内に多くあるのか。

〔事務局〕農地というよりは、道路・農道にあじさいを植えている事例は幾つかあるが、この集落では水田に植栽している。

〔吉野委員長〕法面ではなく、稲が植えられる場所にあじさいが植えられているということか。

〔事務局〕この集落ではそのようにしている。

〔吉野委員長〕この他の取組としては、収穫祭が特記事項になるのか。

〔事務局〕この集落の農家組合が、今年の品評会に出品してもらいたい品目の苗を各農家に配布し、集落のみんなで配布された品目を栽培してその技術を競うということをやっている。大根や白菜がずらっと並んだ写真や動画にあったように、「ぼっちゃんかぼちゃ」や「桜島大根」などの珍しい野菜の苗も配布し、みんなで栽培を楽しみつつ、競いあい食べるという取組を行っているとのことであった。

〔吉野委員長〕この収穫祭に向けて計画的に取り組んでいるということか。これらの野菜は、最後には売っているのか。

〔事務局〕売っているという話はなかった。品評会に持ち寄り、その後は各家庭に持ち帰って食べているものと思われる。

〔吉野委員長〕この集落では、棚田の維持、景観の保全、集落全体で共通の野菜を栽培して収穫祭で品評会を行うなど、複合的な取組を行っている。規模的には、先程の集

落の 1/6 程度で、いわゆる典型的な集落の規模となっている。

・一関市「束稲集落」のいわて中山間賞の受賞を可とすることについて了承された。

③ 下有住集落（住田町）について

・ 事務局が、資料 No. 3 に基づき、住田町「下有住集落」の概要を説明。

〔工藤委員〕今日見た中では、最も子ども達の姿が見える地域と感じた。子どもが結構いる地域なのか。

〔事務局〕当初は、下有住集落だけで夕涼み会を開催していたそうだが、小さな拠点事業等の予算をもらっていることもあり、下有住だけでなく住田町全域から、子ども達とその親御さんに参加してもらえるよう拡大し、25 年続く地域の定番行事となっている。地域に子どもが何人いるか把握していないが、公民館での放課後学習の利用者は５人程度と聞いており、それほど多いわけではない。イベントの運営は中学生に協力してもらうなど、多くの人が参加できる仕組みで取り組んでいるようであった

〔工藤委員〕住田町のあたりは、昔から伝承している踊りなどを子ども達に伝承するといった活動に積極的に取り組んでいる地域なので、子ども達が多く参加しているのかと思いながら拝見した。

〔佐藤委員〕そば茶は販売していないのか。

〔事務局〕まだ試作品の段階である。この冬に集落の人たちに試作品の味を見てもらい、工夫を重ね、来年度を目途に商品化に向けて取り組んでいると聞いている。

〔佐藤委員〕別の地域で製造したそば茶を飲んだことがあるが、大変美味しいものなので、うまく進めばいいと感じた。

〔竹本委員〕今後の課題と将来展望について、地域の活性化を中心に記載されているが、農業生産はどのように展望しているのか。「なべくら」のようには進まないとは思うが、地域のなかで農業生産をまとめていくのか、動きがあれば教えて欲しい。

〔事務局〕会長としては、「いきいき会」が全体の傘にあって、その中に農業生産の農業振興会、多面的、中山間の組織が入り、全体を上手く繋げて地域を盛り上げていきたいとのこと。また、それほど人数が多いわけではないが、この地域には、青年農業士に認定されている方、地域おこし協力隊から新規就農された方などの若い担い手が

いる。農事組合法人もあるので水田の耕作はそういったところで担ってもらいつつ、若い方々には園芸品目を作付けしながら、将来は会長などの役員を担ってもらえるよう世代交代していければとのことである。

〔竹本委員〕若い人が多い集落のようなので、若手が軸になって地域を盛り上げていければいいと思う。

〔郷右近委員〕農業生産のみならず、伝承活動など地域の団結力も感じられ、素晴らしい地域だと思う。そばの作付けに取り組む地域は多くあるが、そば打ち体験まで取り組んでいる地域は少ない。この取組は、外部からの参加者も巻き込んでいるのか。また、松日橋は子ども達が通るには危なくないか。

〔事務局〕基本的には地域のイベントとしてそば打ち体験を行っている。外部から参加者があるかは把握していない。この地域では、そばを交流のツールにしており、そば打ち体験会を開きたい地域があれば、そば粉を他の地域に提供している。また、そばを作付けしたいという他の地域には、そばの種子を融通し、そば粉が欲しいという方にはそば粉を販売するなど、地域をつなげるツールとしてそばを活用している。そばで利益を上げるのは難しく、苦労も多いが、地域をつなげるツールとして引き続き取り組んでいきたいとのことであった。松日橋は安全に通行されていると思う。

〔若菜委員〕大変すばらしい取組と思っている。小さな拠点事業は、住田町の公民館事業で、公民館を中心とした地域づくりを目指している。年間 80 万円ぐらいの予算が出ていると思う。こうした地域づくりの活動と農業分野の多面的や中山間の取組を組み合わせた取組は、課題があって難しいものと思う。取組はすばらしいと思うが、この取組が地域づくりを下支えしているという点が明確になるともっと良い。そばの取組は公民館の事業で実施しているのか。

〔事務局〕夕涼み会などのイベントには小さな拠点の予算を、そばの生産は中山間の協定の中でも取り組んでいる。会長が多面的の会長でもあるので、農地の維持についての号令役ということで連携しやすいかもしれない。まだまだ取組を進める上での課題があるが、会長としては、多面的や中山間の組織と連携しながら、いきいき協議会を充実させていきたい考えのようである。

〔吉野委員長〕この地域は、旧下有住村の全域に該当するのか。４つの農林振興協議会、４つの地区で旧下有住村を構成しているのか。ほぼ、旧全村となるが、このまとまりをなんと表現するか。中山間直払を受けているのは、その中の一部。多面的も２つの

地区。地域ビジョンを策定している単位が下有住であり、旧村全体と読めるので「集落」と付けることが適当かどうか。中山間直払でも「集落」という言葉が出てくるが、これは集落協定という意味であり、何十 ha、何百 ha の規模でも「集落」と付けている。「下有住」のみならよく分かる。地元でも「下有住集落」と呼んでいるのか。この名前で一つの活動単位としての看板があればいいが、「集落」と呼ぶには大きすぎないか。

〔事務局〕地域ビジョンについては、「下有住地域ビジョン」となっている。「下有住集落ビジョン」ではないので、名称については、地元と調整させていただき、その結果を委員の皆様にお伝えする。

〔吉野委員長〕「下有住いきいき活動協議会」とするか「下有住」だけにするか、ふさわしい名前に調整をお願いする。内容としては問題ないと思うので、もう少し相応しい表彰対象の名前にしていただければ思う。

・住田町「下有住集落」のいわて中山間賞の受賞を可とすることについて了承された。

(2) 棚田地域振興活動加算に係る目標の妥当性について

・ 事務局が、資料４、資料５に基づき、棚田地域振興活動加算について説明。

〔工藤委員〕棚田地域振興加算金は、複数年度 700 万円が毎年交付されるものなのか。この目標が、R3 から R6 までの４年間、2800 万円の目標として妥当かどうか考えるということか。

〔事務局〕その通り。

〔佐藤委員〕農家戸数などは加算金額に関係しないのか。

〔事務局〕人数等ではなく、面積に応じて加算金が交付される。10 アール当たり 1 万円の単価で、約 70ha に対して支払われるもの。

〔吉野委員長〕農業用ドローンは県内でも導入が進んでいるのか。

〔事務局〕導入台数は把握していないが、かなり導入が進んでいると思われる。集落単位のほか、個人でも導入している例がある。

〔吉野委員長〕農薬散布用はドローンの下に機械を吊り下げるような形か。

〔事務局〕アタッチメントのようになっている。山間地のような小さいエリアで、1 回約 30 分のバッテリを交換しながら何回にも分けて作業する。150 万円から 200 万円の大型のドローンが用いられており、ラジコンヘリに比べ、地理的に厳しいところで使われている例が多い。

〔吉野委員長〕かなりの金額のドローンになるということか。

〔事務局〕農業用ドローンはどんどん性能アップしており、自動で飛行・農薬散布するなど、人手のかからないものも出てきている。

〔若菜委員〕サイクリングイベントなど、人数的に物足りないという印象がある。イベントに来てもらうだけでなく、その後のボランティアなどに結び付けられないか。サイクリングに来てもらいつつ、その後は、集落の草刈りや地域のお祖母ちゃんたちのお手伝いを行うなど、そういうメニューにしていただいて、棚田があることで地域の暮らし自体もよくなるような取組にできないか。そういう意見を付していただければと思う。

〔事務局〕集落も外部の人との交流を望んでいるので、意見があったことを伝え、そのような取組にしていくよう働きかけていきたい。

・棚田地域振興活動加算に係る目標について妥当とすることについて了承された。

【４　その他】

・ 事務局から今後の予定について情報提供。

【５　閉会】

・ 事務局が閉会を宣言。